NEWS

The Kyushu University Museum

九州大学総合研究博物館ニュース

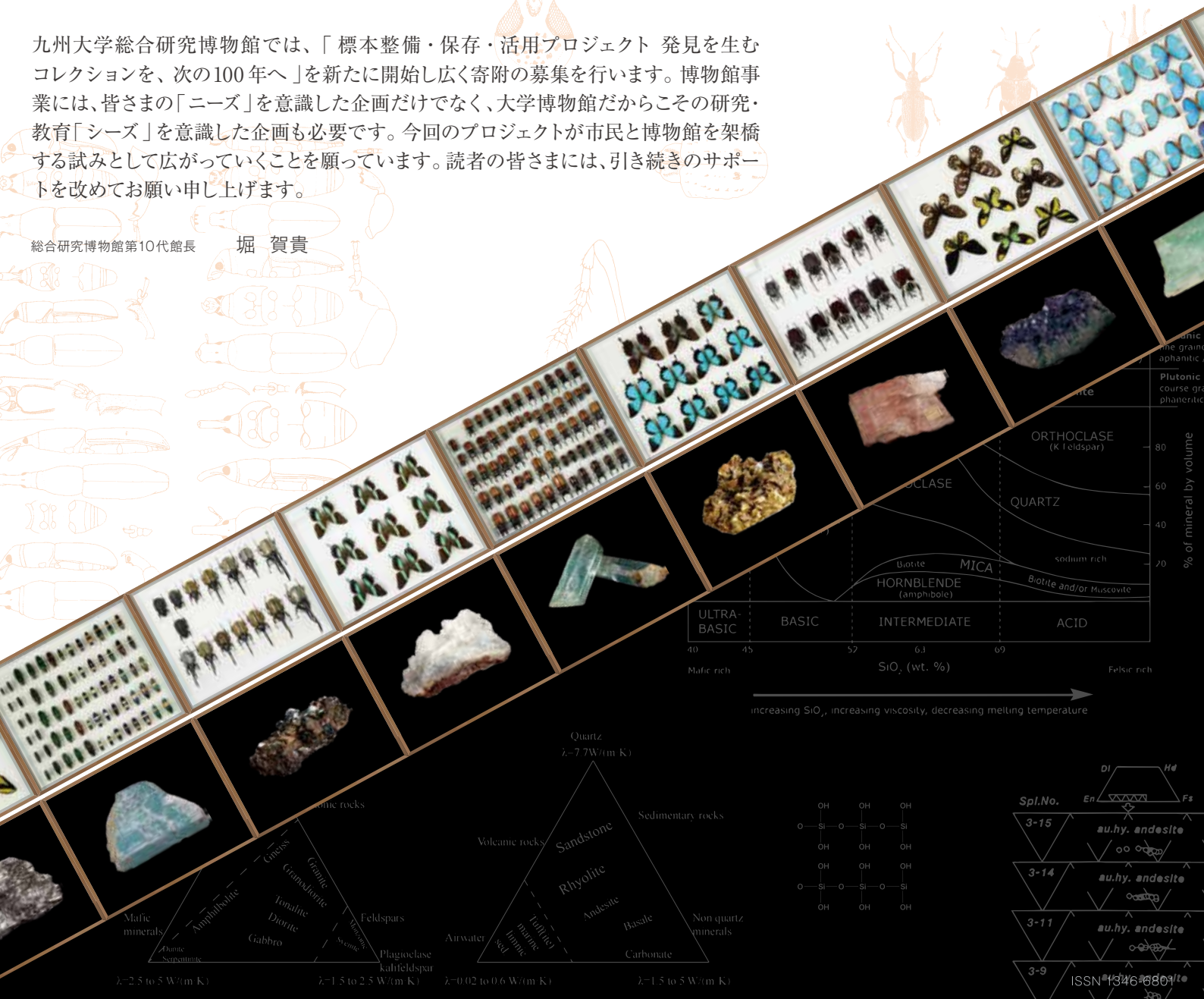
No. 46

october, 2026

新しい寄附プロジェクトを立ち上げました

九州大学総合研究博物館では、「標本整備・保存・活用プロジェクト 発見を生むコレクションを、次の100年へ」を新たに開始し広く寄附の募集を行います。博物館事業には、皆さまの「ニーズ」を意識した企画だけでなく、大学博物館だからこその研究・教育「シーズ」を意識した企画も必要です。今回のプロジェクトが市民と博物館を架橋する試みとして広がっていくことを願っています。読者の皆さまには、引き続きのサポートを改めてお願い申し上げます。

総合研究博物館第10代館長　堀　賀貴



ISSN 1346-6801








2026年度公開展示

ふくおか大昆虫展＆大鉱物展

加藤 萌　分析研究部門・助教／丸山 宗利　分析研究部門・准教授／伊藤 泰弘　開示研究部門・教授

期間●2026年7月25日(土)～8月25日(火)／会場●福岡タワー１階タワーホール１
主催●九州大学総合研究博物館、株式会社 TNC プロジェクト／共催●九州大学 昆虫科学・新産業創生研究センター、福岡タワー

7月25日(土)から8月25日(火)までの１か月間、福岡タワー１階タワーホール１にて、2026年度公開展示「ふくおか大昆虫展＆大鉱物展」を開催しました。

当館では毎年、担当教員がそれぞれの専門分野を生かし、比較的規模の大きな展示として公開展示を企画しています。2026年度のテーマは「昆虫&鉱物」。1つの会場を二つのエリアに分け、昆虫展と鉱物展を同時に開催することで、両方を巡ることも、興味のある展示をじっくり楽しむこともできる構成としました。

本展の開催にあたっては、2023年度の公開展示でもご協力いただいた株式会社TNCプロジェクトと再び連携し、福岡タワー内のタワーホール1を会場として使用しました。福岡タワーにとっても、同ホールを本格的な展示会場として活用するのは初めての試みだったとのことで、会場設営や運営には試行錯誤もありましたが、関係者間で調整を重ね、無事に開催を迎えることができました。

「大昆虫展」では、会場入り口の壁一面に、国内外から収集された大型で美麗な昆虫標本を展示しました。また、九州大学昆虫科学・新産業創生研究センターにご協力いただき、最先端の研究成果を紹介したほか、九州大学が長年研究してきたカイコに関する資料も展示しました。さらに、世界各地のカブトムシやゲンゴロウ、カイコなどを間近に観察できる生体展示も人気を集めました。

「大鉱物展」では、当館が誇る「高壮吉鉱物標本」や、大学草創期に海外から購入された旧工学部列品室の標本の中から、特に大型で美しい鉱物を選んで展示しました。また、会場奥には元素周期表を大きく掲示し、それぞれの元素に対応する鉱物を配置しました。鉱物の美しさを楽しみながら、鉱物と元素の関係を学べる展示として、来場者からも好評をいただきました。

開催期間中には、「カイコの繭クラフト」「ソフビ昆虫の色塗りワークショップ」「化石発掘体験」「鉱物展ギャラリートーク」など、昆虫や鉱物に関連する多彩なイベントも実施しました。各イベントには多くの方が参加し、特に体験型の催しは子どもたちでにぎわいました。

本展は8433名の方にご来場いただきました。今夏も例に漏れず、連日酷暑となりましたが、その中でも足をお運びいただいた皆さまには深く感謝申し上げます。加えて、本展の開催に向けて尽力してくださった関係者の皆さまには、心よりお礼申し上げます。

❶開会式テープカットの様子
❷昆虫展の様子１
❸昆虫展の様子２
❹昆虫展の様子３
❺化石発掘体験の様子
❻鉱物展の様子

2026年度展示開催報告

176万点の学術標本・資料が語る「総合知」の世界へ

丸山 宗利　分析研究部門・准教授／米元 史織　開示研究部門・准教授

2026年5月16日、旧工学部本館（箱崎キャンパス跡地）3階の常設展示室を、2008年の開設以来18年ぶりに全面リニューアルしました。当館が保存する歴史的な木製什器を展示ケースとして再利用し、約110年にわたり蓄積されてきた約176万点の学術標本・資料と、近年新たに収集された資料の一部を再構成。九州大学が培ってきた「総合知」を体感できる展示へと生まれ変わりました。リニューアルには、2022年7月に立ち上げた九州大学基金使途特定寄附「総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業」にお寄せいただいた寄附金の一部を活用しています。



当館の収蔵資料は、昆虫、魚類、植物、動物骨格、古生物、人類、考古、鉱物、鉱山資料など多岐にわたります。今回の展示では、こうした多様な資料を研究と社会を結びつける視点から再構成し、標本や資料が新たな発見を生み、未来の研究や教育を支えていく姿を紹介しています。

リニューアルオープンは「福岡ミュージアムウィーク」に合わせて行い、5月24日までに約1,700名の方々にご来館いただきました。今回の展示は、今後予定している展示の大幅な充実を先取りした「ダイジェスト版」です。九州大学が誇る学術資源と、一つひとつの標本・資料が紡ぐ「知の世界」を、ぜひ会場でお楽しみください。

フジイギャラリー展示開催報告

対馬暖流沿岸の海と人！

対馬今昔──暖流と季節風との暮らし／ふるさと対馬を撮る！ 仁位孝雄写真展

清野 聡子　九州大学うみつなぎ・九州大学大学院工学研究院環境社会部門生態工学研究室



九州大学伊都キャンパスのフジイギャラリーにて「対馬暖流沿岸の海と人！対馬今昔──暖流と季節風との暮らし／ふるさと対馬を撮る！仁位孝雄写真展」を開催しました。

2026年5月11日から同年7月10日にわたり、「対馬暖流沿岸の海と人！対馬今昔──暖流と季節風との暮らし」として対馬での筆者らの研究の紹介と、対馬の漁業の最盛期の写真記録や文物資料展示の「ふるさと対馬を撮る！仁位孝雄写真展」の2部構成で展示をおこないました。

対馬は対馬海峡を対馬暖流が流れ、多様な沿岸地形に恵まれ、大陸からの季節風にさらされています。この海洋学、地理学、生態学的に重要な島はまた、国境離島でもあります。日本列島と大陸の双方の社会の影響を受け、独特の島嶼文化が形成されています。この島の主産業の漁業はまさにこの自然特性を活かしたものですが、近年は水産資源の減少、環境変化により、沿岸漁業は生産高、漁業者人口が減り、危機に直面しています。人口減による島嶼文化の消滅も懸念される中、改めて、この対馬の自然環境、生活文化、漁業、歴史交流、視覚資料を横断的に展示することを試みました。仁位氏のご協力により、福岡市内での講演会、日韓交流、長崎新聞などの発信を行え、さっそく新たな研究教育に発展しています。

会期中、約1200人の観覧者を得ましたが、学術、教育、市民など対馬に関心や縁のある方々が訪問してくださった。展示空間と標本展示は学生や協力者も参加頂き、展示の可塑性やアイデア導入は、大学博物館での大学および社会の教育の可能性を示すことができました。九州大学での展示をもとに、対馬、福岡、長崎での展示のお話もいただいています。これは仁位孝雄氏はじめご後援をいただいた自治体、団体の方々のお力によるものです。心よりお礼を申し上げます。



①


②


③

フジイギャラリー展示開催報告

九州大学工学部建築学科卒業設計展

── Finished／Unfinished 卒業設計と完成までのプロセス展 ──

九州大学工学部建築学科 2025年度卒業生 一同

2026年3月16日～4月24日に、フジイギャラリーにて開催しました「九州大学工学部建築学科卒業設計展」は、大変多くの方々にご来場いただきました。この場をお借りして、多大なるご協力を賜りましたフジイギャラリーおよび関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

建築学科の私たちにとって卒業設計は、大学生活を通して培ってきた思考や知識や技術など全てを導入して全力で自分の考えを自由に表現する一生に一度の機会です。完成した作品にはその人の想いと努力が凝縮されています。ただ、最終成果物に至るまでの過程にこそ、数多くの試行錯誤があり、私たちの学びや葛藤、そして成長が詰まっていると考えています。完成された作品はもちろん、その裏にある未完成で終わった数多の試行錯誤も、その両方を伝えたいと考え、今回のテーマとして副題「Finished／Unfinished 卒業設計と完成までのプロセス展」を決めました。

そこで今回は、学びの軌跡として大学1～3年生までに取り組んできた演習の内容、制作の裏側として制作を支えた道具や材料、個々の葛藤の過程としてそれぞれの完成作品と完成に至るまでの試行錯誤を記した1年間の表を展示いたしました。さらに、制作を振り返って感じたことや今後の挑戦をそれぞれが言葉にして掲示しました。会場にはそれらの資料と力強い模型・ボード15点が並び、見応えのある展示にできたのではないかと思います。ご来場いただいた方々が作品を覗き込みながら細部までじっくりご覧いただいている姿を会場にて拝見し、感想の掲示板にも温かいお言葉をたくさんいただきまして、出品者一同大変ありがたく嬉しい限りでございます。本展示を通じて、私たちが日々どのようなことを考え、社会と向き合っているのか、その一端をお伝えできたのであれば幸いです。この展示会を一つの節目として、私たちはこれからも学びを続けてまいります。

改めて、このような貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございました。最後になりますが、今年度の卒業設計展は2027年3月頃の開催を予定しております。後輩たちが準備を進めてまいりますので、ぜひご期待ください。

❶ 入り口の様子
❷❸ 会場風景

フジイギャラリー展示開催報告

フジイギャラリーG1　ミニ展示について

福永 将大　開示研究部門・助教



フジイギャラリーのギャラリー1(G1)において、新しくミニ展示コーナーを設けることになりました。これまでG1では、九州大学の研究者による最新の研究成果を紹介するパネル展示「九大EXPO」と、九州大学総合研究博物館の所蔵されている学術標本資料の一部を展示する「出張！ 九大総合研究博物館 in フジイギャラリー」の二つの企画展示を開催していました。今回新たに開催することとなったミニ展示は、「博物館教員の最新研究紹介！」と題して、九州大学総合研究博物館に在籍している研究者が日々行っている研究成果の一部を、一般の方にもわかりやすく紹介する企画展示となっています。

今年4月には加藤萌 助教(専門:古生物学)による第1回「陸に上がった沿岸生態系」、6月には福永将大 助教(専門:考古学)による第2回「弥生時代の貝塚」を開催。7月からは、福岡タワー1階タワーホール1で開催した九州大学総合研究博物館 2026年度公開展示「ふくおか大昆虫展＆大鉱物展」(7/25～8/25)との連動企画展示として、「ふくおか大昆虫展＆大鉱物展＋」を開催しました。

今後も2～3か月ごとに展示内容を替えていきたいと思いますので、是非ともフジイギャラリーに足を運んでいただけますと幸いです。※なお、9月からは展示期間が1か月と短かった「弥生時代の貝塚」を再び展示しております。



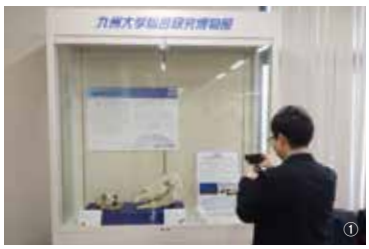
❶「弥生時代の貝塚」展示風景
❷ 貝塚出土の弥生土器と貝

糸島サテライト展示の展示替え報告

糸島サテライト展示

加藤 萌　分析研究部門・助教

九州大学総合研究博物館は、九州大学旧箱崎キャンパス(現・九州大学箱崎サテライト)を拠点に、学内外における研究・教育活動や展示活動を行っています。当館には現在176万点を超える資料が収蔵されており、昆虫標本・鉱物標本・植物標本・動物標本・はく製資料・化石標本・古人骨資料・考古資料・民具資料・歴史的什器など、多岐にわたります。



一方で、当館の拠点である箱崎サテライトは、九州大学の移転後のメインキャンパスである伊都キャンパスや、九州大学とゆかりの深い糸島市から距離があるため、気軽にご来館いただくことが難しいという課題があります。

そこで当館では、伊都地区や糸島市にお住いの皆さまにも当館所蔵の貴重な学術標本や資料に親しんでいただく機会を提供するため、2000年度から「糸島サテライト展示」を継続して開催しています。



展示場所はこれまで変更を重ねながら、現在は糸島市立伊都文化会館、糸島市立志摩歴史資料館、糸島市立図書館二丈館の3施設にご協力いただいています。

糸島サテライト展示では、各分野の担当教員が選りすぐった「一押しの標本」を展示し、定期的に展示内容を更新していきます。九州大学総合研究博物館が誇る多彩なコレクションを、今後もぜひお楽しみください。

❶ 動物骨格の展示(糸島市立図書館二丈館)
❷ アンモナイトの展示(糸島市立志摩歴史資料館)

新規寄附事業開始報告

標本整備・保存・活用プロジェクト

―― 発見を生むコレクションを、次の100年へ ―― へのご支援のお願い

丸山 宗利　分析研究部門・准教授

九州大学総合研究博物館では、表記の新たな寄附金事業を進めています。本事業は、約176万点におよぶ標本を保存・管理し、未来の研究・教育・展示へ引き継ぐことを目的としており、第一弾として生物標本を対象としています。



博物館に収蔵される標本は、生物が「いつ・どこに・どのように存在したか」を記録した人類共通の知の財産です。新種の発見や生物多様性の解明、環境変化の研究など、未来の科学を支える基盤である一方、多くは半世紀以上前から受け継がれてきたため、標本箱や保存資材の老朽化が進んでいます。このままでは貴重な資料が劣化し、将来の研究に活用できなくなる恐れがあります。



本プロジェクトでは、標本箱や収納ケースの更新、棚の整備など保存環境の改善に加え、標本データの整備や、収蔵庫の一部を公開する「収蔵展示室」の整備を進めています。展示される標本の背景には、それらを未来へ残すための保存活動があります。こうした取り組みを広く知っていただき、日本を代表する自然史コレクションを次の100年へ受け継いでいきたいと考えています。

ご寄附は所得税法上の寄附金控除の対象となり、確定申告により税制上の優遇措置を受けることができます。また、博物館ニュースレターやオリジナルグッズの進呈のほか、ご寄附額に応じてバックヤードツアーへのご招待や収蔵設備へのご芳名掲示などの返礼もご用意しております。



未来の研究や教育を支える標本を守るためには、皆さまのご支援が欠かせません。ぜひ本プロジェクトの趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、すでに本プロジェクトにご寄附をお寄せくださった皆さまに、心より御礼申し上げます。皆さまの温かいご支援により、標本の保全の取り組みを着実に進めることができます。引き続き、九州大学総合研究博物館への温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

❶修繕が必要な哺乳類骨格標本／❷100年前の標本箱に入った昆虫標本／❸古い棚に入ったままの内田恵太郎魚類コレクション

COLUMN❶

フジイギャラリー展示開催予告

九州大学美術部大博覧会　深秋展

伊東 璃々子　九大美術部部長

このたび縁あってフジイギャラリーにて展示させていただくことになりました、九州大学美術部です。

実は60年以上の長い歴史をもつ九大美術部は、1958年に設立されて以来、伊都キャンパス移転後も課外活動施設Ⅰを拠点として、活動を続けてきました。

普段は伊都キャンパスのセンターゾーンの教室で週に2回のクロッキー会をしていますが、年に数回学内や大学近郊で作品展示会を開催したり、美術館見学などを行っています。

本展示では、「実りのある秋」をテーマとして、油絵や水彩画のほか、たくさんの作品を展示予定です。

この展示を通して、伊都キャンパスでの芸術活動を盛り上げたいと思っています！

初の試みで手さぐりの展示ではありますが、ぜひ足を運んでいただけると幸いです！





イベント開催報告

寄附者対象の常設展示室ツアー開催

福永将大　開示研究部門・助教

九州大学総合研究博物館では、2022年7月より九州大学基金使途特定寄附「総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業」を立ち上げて、皆様からのご支援・ご寄附を募ってまいりました。本事業は今年4月をもって終了となりましたが、大変ありがたいことに、これまで多くの方々から本事業へのご賛同・ご支援をいただくことができました。改めまして深く御礼申し上げます。

今年5月、九州大学箱崎サテライト（箱崎キャンパス跡地）にあります、当館の常設展示室をリニューアル・オープンしました。2008年の展示開始以来、初めてその展示内容を見直し、お寄せいただいた寄附金の一部を活用させていただきながら展示室の整備を行いました。九大の約110年にわたる研究の歴史や変遷を体感できるような展示室に生まれ変わっています。

その整備状況をご紹介するため、6月21日（日）に高額のご寄付をいただいた方（5万円以上ご寄附いただいた方）を対象とした常設展示室ツアーイベントを開催しました。当日は、午前の部と午後の部の2回に分けてツアーを実施。当館教員が展示を案内しながら、展示品の解説、さらにはリニューアルに際しての裏話などもお話させていただきました。ご参加いただいた皆様から、今後の当館の活動へのご要望やご期待など、温かいお言葉をたくさん頂戴することができ、当館教員一同、より良い大学博物館施設・活動を目指して気持ちを新たにした次第です。お忙しいところご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

今年5月から、当館では「総合研究博物館 標本整備・保存・活用プロジェクト ── 発見を生むコレクションを、次の100年へ ──」という新たな寄附事業を立ち上げました。大学博物館における研究・教育・展示活動をより一層発展・拡充していくためにも、当館所蔵の学術標本資料を適切に保存・管理し、次の100年へと確実につなぎ残していくことを本事業の目的としています。新規寄附事業におきましても、ご寄附に対する謝意として、収蔵庫・バックヤードツアーなどのイベントを開催する予定です。今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

❶ツアー風景（昆虫エリア）／❷ツアー風景（人類・考古エリア）／
❸ツアー風景（化石・鉱物エリア）

COLUMN❷

フジイギャラリー 展示開催予告

大学博物館の裏ガワ ── 考古・化石・什器の再発掘 ──

福永 将大　開示研究部門・助教／加藤 萌　分析研究部門・助教



伊都標本資料研究・教育ブランチ（以下、伊都ブランチ）は、2023年4月に伊都キャンパスに竣工した施設です。当館所蔵の学術標本資料の一部が収蔵され、本学教員や学生などの研究・教育の場として活用されています。

伊都ブランチにおける活動を皆様に知っていただくため、このたびフジイギャラリーにて企画展「大学博物館の裏ガワ── 考古・化石・什器の再発掘 ──」を開催することになりました。本展示では、特に考古学と古生物学に焦点をあて、伊都ブランチで行われている標本資料の整理作業や調査・研究のプロセスを紹介します。会期中にギャラリートークや土器洗い体験などを開催する予定ですので、フジイギャラリーHPにて最新情報をご確認ください！

No. 46 october, 2026
NEWS
The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

博物館の活動記録
Activities of Exhibitions & Conferences

企画展示

●「九大工学部建築学科 卒業設計展 2026~Finished/Unfinished 卒業設計と完成までのプロセス展~」
期間○令和8年3月16日(月)~令和8年4月24日(金)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学工学部建築学科
後援○松通会(建築学科同窓会)

●「陸に上がった沿岸生態系」
期間○令和8年4月1日(水)~令和8年5月29日(金)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
協力・監修○金沢大学国際基幹教育院 佐藤 圭講師、金沢大学理工学域地球社会基盤学類ジェンキンズ・ロバート准教授

●「対馬暖流沿岸の海と人!:対馬今昔ー暖流と季節風との暮らし/ふるさと対馬を撮る!仁位孝雄写真展」
期間○令和8年5月11日(月)~令和8年7月10日(金)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学うみつなぎ・九州大学大学院工学研究院環境都市部門生態工学研究室

●「九大 EXPO2025」
期間○令和8年5月11日(月)~
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
協力○九州大学広報課

●「常設展示室 リニューアルオープン 特別公開」
期間○令和8年5月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)
場所○九州大学総合研究博物館 常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館

●「弥生時代の貝塚」
期間○令和8年6月11日(木)~令和8年7月24日(金)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館

●「海洋プラスチックの由来と影響 ── 総合知で捉える地球規模の課題ー展」
期間○令和8年8月1日(土)~令和8年10月2日(金)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学 未来社会デザイン統括本部

●「ふくおか大昆虫展&大鉱物展+」
期間○令和8年7月28日(火)~令和8年8月25日(火)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館

公開展示

●九州大学総合研究博物館 2026年度 公開展示「ふくおか大昆虫展 & 大鉱物展」
期間○令和8年7月25日(土)~8月25日(火)
場所○福岡タワー タワーホール1
主催○九州大学総合研究博物館、TNC プロジェクト
共催○九州大学 昆虫科学・新産業創生研究センター、福岡タワー
協力○TNC 放送会館
後援○TNC テレビ西日本

サテライト展示

●動物骨格からわかること
期間○令和8年4月1日~
場所○糸島市立糸島市図書館二丈館
●九州大学の弥生時代研究:中山平次郎と金関丈夫
期間○令和8年4月1日~
場所○糸島市立伊都文化会館
●アンモナイトの海
期間○令和8年4月1日~
場所○糸島市立志摩歴史資料館

学外連携事業

●「福岡ミュージアムウィーク 2026」
期間○令和8年5月16日(土)~24日(日)
場所○参加各施設
主催○福岡ミュージアム連絡会議

協力

●「ゼミソン・ダリル《松の木の問を》サウンド・インスタレーション&ミニワークショップ」
期間○令和8年5月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)
場所○九州大学箱崎サテライト 地蔵の森周辺
助成○科学研究費助成事業 基盤研究(C)「大学博物館におけるアート・インターベンションに関する理論調査と展示実践」(課題番号:24K03582/研究代表者:結城 円 九州大学)、公益財団法人隈科学技術・文化振興会 2025年度文化芸術分野活動助成 AB「博物館・自然・現代美術 ― 知の再編とその可視化」
協力○九州大学総合研究博物館

●対馬博物館 令和8年度特別展「対馬の生き物たちの半世紀」
期間○令和8年5月30日(土)~8月31日(月)
場所○対馬博物館
主催○対馬博物館
後援○長崎県生物学会
協力○北九州市立自然史・歴史博物館、九州大学総合研究博物館、九州大学農学部、対馬の自然と生き物の会、奥村賢一

監修

●特別展「超危険生物展 科学で挑む生き物の本気」
期間○令和8年3月14日(土)~6月14日(日)
場所○国立科学博物館
主催○国立科学博物館、TBS、TBSグロウディア、朝日新聞社
総合監修○川田 伸一郎(国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹)
監修○西海 功(国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹)、田島 木綿子(国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究主幹)、中江 雅典(国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究主幹)、丸山 宗利(九州大学総合研究博物館 准教授)、堺 淳(一般財団法人 日本蛇族学術研究所 主任研究員)、冨田 武照(一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究所 動物研究室 主査研究員)

●大昆虫展 in 東京スカイツリータウン
期間○令和8年7月11日(土)~8月30日(日)
場所○東京スカイツリータウン・ソラマチ
主催○大昆虫展実行委員会
後援○環境省/東京都/墨田区/墨田区教育委員会/墨田区観光協会/上月財団
監修○五箇 公一(国立環境研究所)、丸山 宗利(九州大学総合研究博物館)
特別協力○東武鉄道/東京スカイツリータウン/九州大学総合研究博物館

講演会

●九州大学総合研究博物館 2026年公開講演会
「ポケモンとコレクション」
日時○令和8年3月29日(日) 14:00~16:30
場所○九州大学箱崎サテライト 旧工学部本館1階大講義室

テレビ・ラジオ出演

●NHKラジオ「子ども科学電話相談」
令和8年4月26日、5月4日、8月3日
丸山 宗利(准教授)

●NHK ラジオ「まんまる」
令和8年8月3日
丸山 宗利(准教授)

●RKB ラジオ「Toi toi toi」
令和8年5月26日(火)
伊藤 泰弘(教授)、米元 史織(准教授)、福永 将大(助教)

●TBS テレビ「クレイジージャーニー」
令和8年5月18日、6月1日、6月15日
丸山 宗利(准教授)

その他の活動状況
Others

人事往来

●令和8年5月31日付けで、事務補佐員の吉原 加代子が退職しました。
●令和8年6月1日付けで、香月 千佳が事務補佐員として着任しました。

九大博物館 Instagram はじめました!

KYUDAI_MUSEUM

九州大学総合研究博物館、フジイギャラリーの展示・催事情報等を発信していきますので、ぜひフォローをお願いします。

アカウント名:kyudai_museum
https://instagram.com/kyudai_museum/

総合研究博物館では2026年5月、新たに使途特定寄附金を設置しました。皆様からの以下のご寄付を受け付けています。

使途特定寄附金
『総合研究博物館 標本整備・保存・活用プロジェクト』

詳しくは九州大学基金の HP をご参照下さい
▶九州大学総務部同窓生・基金課基金係:
総合研究博物館 標本整備・保存・活用プロジェクト】
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/info/news/view.php?page=1&r_division=0&cid=2432

◎当館では、約176万点の学術標本・資料を未来へ継承するため、「標本整備・保存・活用プロジェクト」を開始しました。皆様からのご寄附は、標本をより良い状態で保存・活用するための標本箱・収納ケースの整備や保存処理、収蔵環境の充実などに活用いたします。

フジイギャラリーからのおしらせ

フジイギャラリーのHPでは過去の展示のアーカイブ・3D展示を見ることができます。

編集○米元 史織　デザイン○UNIZON　発行○九州大学総合研究博物館　〒812-8581　福岡市東区箱崎 6-10-1　TEL 092-642-4252　website○http://www.museum.kyushu-u.ac.jp
印刷○城島印刷株式会社　〒810-0012　福岡市中央区白金 2-9-6　TEL 092-531-7102　FAX 092-524-4411　発行日○令和8年10月9日
©2026 The Kyushu University Museum